

新潟医療福祉大学 同窓会誌
Niigata University of Health
and Welfare
An Alumni Bulletin

No.13
2017.3

OPPOH 伍桃

[第1特集] P.1~P.10

野球× 硬式 対談式 軟式

硬式野球部 投手
笠原祥太郎 × 目黒 純
プロ野球 中日ドラゴンズ 入団
軟式野球部 投手
第二回大学軟式野球
国際親善大会 日本代表

[第2特集] 第4回 連携研修会
P.11~P.14

[第1特集] P.1~P.10

硬式×軟式 野球対談。

2016年、新潟医療福祉大学には「野球」旋風が駆け巡った。

その中心には、無名から始まった二人の投手がいた。同窓会はそんな二人にスポットをあてた。

本当に苦しい
一年間だった。

硬式野球部 投手 笠原祥太郎
プロ野球 中日ドラゴンズ 入団

笠原祥太郎 (かさはら・しょうたろう)

健康科学部健康スポーツ学科4年
新潟県新潟市出身

硬式野球部の第一期生。MAX147キロの直球
が持ち味の左腕。2017年からはプロ野球選手と
して、厳しい世界でさらなる飛躍を目指す。

自信と悔しさを
得た一年間。

軟式野球部 投手 目黒 純
第二回大学軟式野球国際親善大会 日本代表

目黒 純 (めぐろ・じゅん)

健康科学部健康スポーツ学科3年
新潟県魚沼市出身

軟式野球部に所属。長身から豪快に投げ込む直球は140
キロを優に超える右腕。2016年に軟式野球の大学日本代
表として国際舞台で活躍。

一年間(2016年)を振り返って—

笠原 一年間を通してずっと苦しめたんです。

春(関甲新1部リーグ戦)ではいい成績を残せたのですが、簡単に勝てる試合がなくて、ギリギリの試合が続いた結果、優勝できず2位という結果になってしましました。でも、この結果があったから今の自分があると思います。

秋になってからはドラフトを意識してしまい、自分の投球スタイルを見失った感がありました。成績も1勝6敗くらいと、もしかしたらドラフトにも選ばれないのではないか…という思いも含め、本当に苦しい一年だったと思います。

目黒 一年間を通して思うのは、入学してから軟式野球部を取り組んできたことは間違いではなかったと、自信のついた一年間でした。



硬式野球部・軟式野球部ともに全国屈指の強豪校に勝利—

笠原 入学した時から全国大会へ出場すること、優勝することをずっと目標にしてきたので、やってやるという気持ちではいたのですが、強豪校である上武大学を相手に1勝できたのは正直、予想外でした。勝てたことはよかったです。



目黒 東日本大会以降、たくさん練習して全国大会に臨みました。日本体育大学(以下、日体大)も東日本大会で優勝して

いましたし、日本代表選手が何人もいて大会優勝候補でした。ただ、自分たちには自信があったので、日体大が相手でも勝てる気持

ちはありました。のびのびと戦えた結果が、日体大戦の勝ちにつながったのではないかと思います。

上位大会・国際大会を経験し—

笠原 硬式野球部一期生として、関甲新3部リーグからのスタートでした。その時は正直、3部リーグをなめていた感はありました。結果、最初の3部リーグ戦は7チーム中5位ぐらいで…。本

当にこのままではまずいなと感じました。そこからはチーム全員が意識を改革して、3部リーグでの優勝から、2部、1部へと進んでいきました。ただ、1部リーグはやはり緊迫感が全然違うなと感じました。

3部リーグのグラウンドは、ブルペンに膝丈ぐらいの草がボウボウと生えていたり、グラウンドの脇には刈った芝がそのまま放置されていました。環境面でも、上

一年次に出席した(その時は試合には出ていませんが)全国大会の雰囲気をみて、このステージで上を目指したいと思うようになりました。

国際大会の日本代表選考会の時は、以前から部の仲間からはいけると言われていましたが、実際にやってみたら、予想していたよりもかなり雰囲気がピリピリしていました。選手のレベルもかなり高かったので、実際どうかなあと。

けれども、やることをやるだけだと思い、開き直れたことがいい結果(日本代表に選出)に繋がり、よかったです。

限られた練習時間の中で「自分たちで考える」—

笠原 コーチが決めた基本的な練習メニューはありますが、自分たちでもアレンジしています。チーム自体の練習時間は全体練習が短く、自主練習が長いので、自主練習の時にそれぞれ好きなことをしたり、重点的に個人の課題に取り組んだりと、自分たちで考えて練習しています。

正直、自分は高校生(新津高校)の時も練習時間は長くはなかったので、大学に入學してからもいつも通り練習していた感じです。ただ、大学に入ってからは

バッティング練習がなくなったので、正直それが一番辛かったです。打つことは好きなので(笑)。

目黒 曜日にもよりますが、夕方の練習は授業後なので皆で集まることができますですが、昼間の練習の際は個々に授業があるので集まることが難しいです。個人技を高める練習というよりは、実戦形式の練習をしています。ピッチャーが投げ、バッターが打つ、その中で野手が動く、という感じです。実戦形式の中で考えてプレイしています。

ただ、大学にグラウンドがなくなってしまって、一回練習するためにも外の球場を借りなくてはいけないのでお金がかかります…。秋は





夕方でも夜間照明を点灯させないと
いけないのでよりお金がかかります。

トレーニングと食事—

笠原 正直、ウエイトトレーニングは全然ないです(苦笑)。走って、食べて、投げてという感じです。過去に冬にウエイトトレーニングを取り入れた際、腰を痛めたりすることがあり、それからはほとんどしていません。

実家住まいですが、食事は肉が中心、野菜は時々です。食べた分だけ太ってしまうので、食べ過ぎないよう、量に気をつけています。体重は現在85kgぐらいです。高校時代は75kgぐらいでした。

目黒 食事は一人暮らしなので毎回ではないですが、できるだけ作るようにしています。肉、魚、野菜を中心として、食材がなくなったら買いに行って、という感じです。夜、アルバイトをしているので、その時は少し食べて、という感じです。

ウエイトトレーニングも自分たちの代はしなかったですね。

高校の時、身体はもっと細かったです。地元(魚沼市)は大雪なので、冬季は室内で走り込んで筋力をつけました。そこで体重が一気に増え、大学に入学してからはほとんど増減がないです。現在は身長180cm、体重73kgです。

硬式野球部と 軟式野球部の交流—

笠原・目黒 硬式野球部と軟式野球部で試合をしたことがあります!!

笠原 その時は軟式ボールで試合をしました。外の球場を借りて、いつ頃だったっけ?

目黒 2015年でしたね。2016年もしました、6月頃だったかな。

笠原 たしかリーグ戦終わったぐらいだったよね。

目黒 その時は、硬式野球部3年生と軟式野球部3年生が中心に集まれる人が集まってという感じで、結構バチバチに真剣に試合をしましたね。

軟式ボールで試合をしたので、

硬式野球部の皆さんには結構やりづらかったみたいで。

笠原 打ちにいっても全部上がっちゃって(笑)。

目黒 その分、いい試合になりましたね。

笠原 そうだね(笑)。

今後について—

笠原 中日ドラゴンズのキャンプのきつさは全球団の中でトップらしいので、これから対策を練ります(苦笑)。まずはキャンプで頑張り、結果を残して開幕一軍を目指します。そして一年でも長く活躍できるように頑張りますの

で、皆さん応援よろ

しくお願いします。

目黒 日本代表として国際大会に出場ましたが、正直全然力を出し切れなかったと感じています。来年も選考会を受けてみてはどうか、と声をかけられ、その時は正直悩みました。

今回の全国大会で本来自分は引退なので、下級生を中心となる来年のチームに、4年生になる自分が残るのはどうなのか…。

軟式野球部は歴代、3年生が責任感を持ってチームをまとめているので、この流れを崩したくない気持ちがあります。

現在、草野球チームにも入っているので、残りの大学生活はそちらで野球を続ける予定です。将来的には、就職した企業にチームがあれば検討するかもしれません…野球で食べていくつもりはないですね(笑)。

後輩たちに—

笠原 軟式野球部の全国3位という結果は、自分たち硬式野球部からしてみれば、最強だと思います。

自分たち硬式野球



部の春の関甲新1部リーグでの2位という結果は、軟式に比べたら…それに、秋の結果は悔しいですね。だからこそ、後輩たちには全国に行ってほしいと思います。

目黒 硬式野球部が一部で結果を残しているので目立つ部分はありますが、軟式野球部も結果を残していくば並んで知名度が上がると思うので、後輩たちには頑張ってほしいです。その為に自分ができることがあれば協力したいと思います。



ぶっちゃけ! 本音トーク!!



大学での勉強は?
…野球のことしか…!!

監督はどんな人?
普通の人です。
ポイントを押さえて助言をくれます。
試合中に監督に言われたことは…あまり覚えていないです(笑)。

休日の過ごし方は?
練習もない日は**家でゴロゴロ。**
せっかくのオフに体力を使うのは…。

強化指定クラブとしての重圧は?
強化指定クラブは常に結果が求められますが、
自分はただやるだけでした。
あとは、キャプテンや周りのメンバーがまとめてくれていました。

大学への要望はありますか?
自分たち4年生が引退しても、
硬式野球部は100名以上の部員がいるので、
サブグラウンドと室内練習場を
あと2個位つくってほしいです(笑)。
あと、グラウンド近くにトレーニング室も(笑)。

大学での勉強は?
日々努力しています(笑)。

監督はどんな人?
軟式野球部には監督がいません。
草野球チームの監督は厳しくないです。

休日の過ごし方は?
野球かアルバイト。

今やりたいことは?
部活を引退したので、楽しいことがしたいです。
みんなで旅行とか。
今から「硬式野球」…は厳しいですね。

大学への要望はありますか?
もともとあったグラウンドがなくなってしまいました。
なので、軟式野球部も
使えるようなグラウンドが
ほしいです(笑)。



自分を成長させるために、
困難なことに立ち向かうこと。
挑戦することで今までにない自分を見つけることができる。

笠原 祥太郎

挑戦人の○

高校時代はともに無名の選手。
それでも「挑戦」し続けることで、
プロ野球選手、日本代表選手という花を咲かせた二人。
そんな二人にとって「挑戦」とは…

挑戦することで
可能性が生まれる。
何もしなければ
できるかもしれないという
可能性すらつかめない。

目黒 純





「連携研修会」とは…

大学での連携教育を踏襲し、専門職としての資質向上（スキルアップ）の実現を目的とした同窓会の中核を担う事業です。卒後教育・生涯教育を充実させるとともに、専門職として活躍している同窓生どうしの新たな連携方法を模索し、相互の親睦を深める機会を提供しています。

【開催実績】

平成25年度 理学療法学科×健康栄養学科
平成26年度 作業療法学科×言語聴覚学科
平成27年度 義肢装具自立支援学科×社会福祉学科

2016 年10月29日(土)、母校である新潟医療福祉大学にて第4回目となる連携研修会が開催され、「運動」と「認知症（予防）」をテーマとした講演およびパネルディスカッションが実施されました。

今回の企画および運営は健康スポーツ学科の同窓生を中心として進められました。また本研修会は「健康運動指導士・健康運動実践指導者」の資格更新に必要な単位が認定される講習会を兼ねており、充実した学びに加え新たな付加価値を提供することとなりました。



第1部

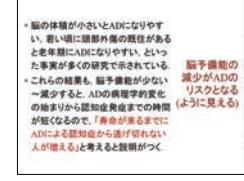
特別講演 「認知症『予防』:予備能の視点から」



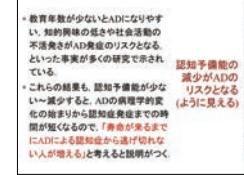
研 修会第1部は今村徹先生(新潟医療福祉大学 言語聴覚学科／大学院医療福祉学研究科 保健学専攻言語聴覚学分野教授)よりご講演いただきました。認知症の概念をはじめ、もっとも主要な疾患であるアルツハイマー病の具体的な症例と、認知症への介入において鍵となる「予備能」に着目した研究現状や課題について明解な説明がなされました。認知症に対する知識・見解の理解を一層深め、新たな学びも得ることができた有意義な講演でした。



2種類の予備能



認知予備能の減少がADのリスクとなる



認知予備能の減少がADのリスクとなる



今村先生コメント

まだまだ多くの課題があるが、運動介入が予備能を増加させることに成功すれば(立証できれば)、認知症の発症から逃げ切って、自身の天寿をまとうできる人が増えるであろう。

第2部

同窓生パネルディスカッション 「認知症における他職種連携アプローチの現状」



研 修会第2部は特別講演の内容を踏まえ、理学療法学科、健康スポーツ学科、言語聴覚学科、社会福祉学科を卒業した同窓生によるディスカッションを行いました。それぞれの職種における認知症への知識、現場で求められる対応や課題について討議し理解を深めることで、他職種との連携の重要性について改めて考える機会となりました。



| パネリストコメント |

言語聴覚学科2011年卒 小松 慎太郎さん
言語聴覚士(新潟医療福祉大学大学院在学)



今回は言語聴覚士の立場として研修会に参加しました。研修会を通じて一番感じたことは「同じ医療介護職であっても認知症に関する知識や接し方にはかなりの差がある」ということです。同業種内においても知見の差があるということは、普段認知症の方と接する機会のない方の見識やイメージには、さらに大きな差があるのかもしれませんと感じました。今回の研修会を通じて、私たちの知見が少しでも広まり、役に立てもらえると幸いです。私自身、とても勉強になる研修会でした。

社会福祉学科2007年卒 丸山 美佳さん
介護福祉士(上越市社会福祉協議会 グループホーム安塚やすらぎ荘勤務)



この度は貴重な経験となりました。普段の業務の中では、なかなか他職種と関わる機会がないのですが、今回の連携研修会を通じて、より一層のサービスと質の向上の実現には、他職種との連携の必要性を改めて感じました。今すぐには難しいかもしれません、今回の連携研修会に参加したことを活かし、他職種との連携やアプローチについて勤務先の職員にも伝え、少しづつでも実践できる方法を検討していきたいと考えています。

健康スポーツ学科2009年卒 小林 由佳さん
健康運動実践指導者(株式会社ツクイ勤務)



連携研修会はとても貴重な経験となりました。今回は認知症について、改めて色々な視点からみて考えさせられるよい機会となりました。運動指導者としての視点だけではなく、他職種からみた関わり方や考え方、課題について知ることができました。他学科の先輩方や後輩の皆さんと情報交換や共有ができ、とてもよい刺激になりました。このような機会を私だけでなく、同期や後輩にも知ってもらいたいと感じています。楽しい時間を過ごすことができました。

理学療法学科2006年卒 大谷 康恵さん
理学療法士(介護老人保健施設 悠遊苑勤務)



今回、連携研修会に参加したこと普段の関わりの振り返りになり、「認知症」を再考するきっかけになりました。また他職種の意見や自分の職種に求められていることを知る機会にもなり、より役割や繋がり(連携)を意識して仕事に取り組んでいこうと感じました。





連携研修会 総評



健康スポーツ学科2009年卒

新潟医療福祉大学同窓会 役員

阿部 弘典 さん

(特定非営利活動法人

総合型地域スポーツクラブ ハピスカとよさか 勤務)

今回の連携研修会を開催するにあたり、まずは多くの健康スポーツ学科の同窓生にこの研修会の存在や意義を知ってほしいという想いがありました。また、多くの健康スポーツ学科同窓生は「健康運動指導士・健康運動実践指導者」の資格を保有しており、資格の更新に必要な単位を取得できる研修会となれば、より同窓生のメリットになると考え、企画・準備を進めてきました。研修会当日は、同窓生だけでなく、在校生も含め多くの方に参加していただきました。今村先生の講演では、『認知症』について多くの学びを得ることができ、私自身も健康運動指導士として現場で直面している課題解決のヒントを得ることができました。同窓生によるパネルディスカッションでは、学科間のヨコのつながりの必要性を改めて感じ、大学時代の連携教育の重要性を再認識する機会となりました。このような研修会は、日々の現場で直面する課題や悩みを解決できる可能性に繋がるものであり、同窓会の存在は非常に心強いものであると感じました。

最後に、今村先生を始め研修会開催にご協力いただいた皆様のおかげで、無事に開催することができました。



[第3特集]

職場訪問×同窓生対談

2016年10月に岩手県で開催された「全国障害者スポーツ大会(希望郷いわて大会)」にて、嶋見さん(義肢装具自立支援学科卒)と寺嶋さん(健康スポーツ学科卒)、二人の同窓生が偶然にも大会の運営に関わっていました。この大会を機に、互いの仕事が異なっていても「連携」の可能性があることを知り、まずは嶋見さんの職場を訪問するという形で対談の機会が設けられました。仕事への想いや学生時代の思い出、在学生へのメッセージなどについて語られました。

寺嶋 2016年10月に岩手県で国民体育大会(以下、国体)が開催されました。国体後、全国障害者スポーツ大会が開催され、私は仙台市選手団の総務係として帯同していましたが、嶋見さんも現地で大会を支えたとうかがいました。

嶋見 はい、私は車椅子の修理係として大会に携わりました。

寺嶋 嶋見さんは義肢装具士としての仕事に加え、車椅子の修理も行うのですね。

嶋見 大学在学中、授業とは別で個人的に車椅

子修理のボランティア活動をしていました。

寺嶋 「義肢装具士」へ興味をもったきっかけは何だったのですか?

嶋見 高校の職業パンフレットをみて興味を持ち、大学に入ってからはより具体的なイメージを描くようになった感じですね。自身ではじめてつくった物を使っていただいた時は感動し、やりがいを感じました。

寺嶋 仕事をする上で大切にしていることはありますか?



義肢装具自立支援学科 2014年卒

嶋見 優太さん

株式会社P.O.イノベーション勤務



健康スポーツ学科 2009年卒

寺嶋 博信さん

仙台市障害者スポーツ協会勤務

嶋見 オーダーメイドの仕事なので、しっかりと対応をするように心がけています。また、補装具や車椅子について使用される方のほうが詳しい場合もあるので…。知識や考えをしっかりと持っておくことが大切であると感じています。

寺嶋 常に最新の知識や情報を持っておくことが重要なのですね。

嶋見 岛見さんも全国障害者スポーツ大会に関わっていたとのことですが、普段はどのようなお仕事をされていますか?



寺嶋 障害者スポーツ協会にて障害者スポーツの普及と振興を目的に、体験会やスポーツ教室、大会の開催・運営などを行っています。2016年のリオパラリンピックで障害者スポーツも注目を集めましたが、障害のある方のスポーツ実施率はまだまだ低いのが現状です。そのため、より多くの方に障害者スポーツを知っていただき、盛り上げていく必要があります。障害者スポーツを行える環境の整備、施設などのハード面だけでなく、各スポーツ団体との連携などといったソフト面での充実も図れるよう努めています。

また、現在は障害の有無に関係なく、健常者も障害者と一緒にスポーツを楽しむ動きもみられます。「参加者全員が一つになれる」「楽しさを共有できる」ことはスポーツの持つ魅力でもあります。

嶋見 私はウィルチェアーラグビー（車椅子ラグビー）に興味があります。パラリンピックで銅メダルを獲得しましたし、車椅子同士が激しくぶつかるとメンテナンスが必要になります。メンテナンスが必要となると、義肢装具士が活躍できる場も増えると感じています。

寺嶋 そうですね、ウィルチェアーラグビーをはじめ、障害者スポーツの大会は、様々な方々のサポートや関わりが必要になってきます。大会中、車椅子や装具に不具合があった場合は修理やメンテナンスが必要になります。選手自身で修理やメンテナンスを行う場合もありますが、選手が安心して競技に臨むためには周りのサポートが必要です。障害者スポーツの普及には、スポーツを行う人（選手）のみならず障害者スポーツに携わる人、関わる人を増やしていくことが一番重要であると感じています。

寺嶋 嶋見さんは車椅子修理のボランティア活動が現在に活きていますが、その他、在学中に学んだことで活かしていることはありますか？

嶋見 連携ゼミ等で他学科のことを学べた、知ることができたのは大きいと思います。相手の立場や役割に自身を置きかえてないと話せないことも多々ありました。仕事上病院に行くこと多く、その際は連携ゼミでの経験が役立っています。

寺嶋 他学科と連携が図れることも新潟医療福祉大学の強みですね。私も他学科との交流や連携があったことは現在の仕事に活かされていると強く感じます。在学していた当時より現在は学科も増え、各学生が様々な分野について学べる環境が充実していると思います。その点も踏まえて、在学生に向けて嶋見さんからメッセージをお願いします。

嶋見 義肢装具士の視点では「良くしたい」という心を忘れずに学んでいってほしいです。常に新しいものができる分野なので探究心も必要です。授業やボランティア活動など、何事も積極的に学んでほしいです。また、同じ学科の仲間や他の学科の仲間との連携は在学中だけでなく、卒業後も活きてくると思います。

ので、仲間を大切に共に学んでいくてほしいですね。

寺嶋 そうですね、同窓生としても在学生や卒業生の活躍を応援していきましょう。本日はありがとうございました。

嶋見 こちらこそありがとうございました。



新潟医療福祉大学同窓会「東北支部」設立!!

平成28年10月30日(日)、宮城県仙台市にて「新潟医療福祉大学同窓会 東北支部設立総会」が行われ、同窓会東北支部が設立されました。新潟医療福祉大学同窓会の支部は「首都圏支部」に引き続き、二つの支部設立となりました。

東北支部設立のご挨拶

作業療法学科(2011年卒)

高野 葵さん



この度、新潟医療福祉大学同窓会東北支部の支部長となりました高野葵です。

昨年までは本部役員として活動しておりました。在学中には同学科の先輩後輩との関わりだけでしたが、伍桃の作成や連携研修会の運営などを通じ他学科の先輩・後輩との繋がりを得ることができ、自分の成長のきっかけになる良い刺激をいただきました。

新潟医療福祉大学は創立以来飛躍的に発展し、4学部12学科と多くの同窓生を輩出しています。同窓生の活動範囲も幅広く、各地で活躍が見られるようになってきています。

私たち同窓会は昨年度まで本部と首都圏支部の二つで活動を行ってきましたが、各地で活躍する同窓生を今まで以上に支援していくべく、今年度より東北支部を立ち上げることになりました。

まだまだ同窓会自体が若く活動内容も試行錯誤の繰り返しだけですが、東北支部も本部・首都圏支部と協力しながら新潟医療福祉大学同窓会を盛り上げていきたいと思います。まだ役員も少ない支部ですので、顔の見える関係を作りながら東北から同窓会を盛り上げていけるように頑張りたいと思います。皆さま、お力添えよろしくお願いいたします。



第6回

ホームカミングデー 「あそびのひろば」開催！



平成28年10月9日(日)、第6回ホームカミングデー「あそびのひろば」を開催いたしました。今回のホームカミングデーは昨年に引き続き「スポーツ×親子」をテーマとして、レクリエーションスポーツ体験、YOGA体験、プロカメラマンによるキッズ・ファミリー写真撮影企画に加え、地元食材を使ったアイスクリーム提供という新企画を展開しました。

いずれも同窓生をスタッフとして迎え、健康スポーツ学科在学生の皆さんにもご協力いただきました。あいにくの雨模様ではありましたが、会場内でのパパ＆ママ、ちびっこたちは大いに盛り上がっていました。

当日は同時に開催していた「伍桃祭」にも足を運んでいただき、慣れ親しんだ校舎や当思い出され、楽しいひとときを過ごしていただけたのではないでしょうか。多くの方のご来場、本当にありがとうございました。

ホームカミングデー総評

健康スポーツ学科2015年卒

小塙 千晶さん

(見附市健康運動指導員)

今日は学生の皆さんのが積極的に行動し、ホームカミングデーの成功に尽力してくれました。改めて皆さんに感謝します！当日は小さなお子さんとそのご両親がスポーツや写真撮影などを楽しんでいました。また、在学生と卒業生が当日の運営を通して交流する良い機会となりました。来年度はもっと多くの卒業生に来てもらえるような企画を取り入れて、盛り上げていきたいと思います。



今回も健康スポーツ学科卒業生に講師や出店を依頼しご協力いただいた結果、円滑な運営が実現できました。また当



連携総合ゼミ

Cooperation Community-based Seminar
2016/09/05 mon - 09 fri



在学生支援として、臨床現場で活躍中の4名の同窓生が各テーマに対し取り組む在学生に対しアドバイスを行いました。

事例テーマ一覧

- ①脳性まひ(疑い)児と育児不安をもつ母への成長・発達支援
- ②女子高校生競技者の食育行動異常、無月経、骨粗鬆症
- ③筋萎縮性側索硬化症(ALS)ケースの在宅療養実現への支援
- ④わたしも町のような人になりたい(精神科領域)
- ⑤小学校虐待死事例の検証(報道事例)
- ⑥切迫早産・妊娠高血圧症候群で入院が必要になった妊婦への援助
- ⑦脳卒中片麻痺者の自宅での生活
- ⑧開発途上国における障害のある人たちのための地域に根ざしたリハビリテーション
- ⑨高齢者糖尿病合併症の支援策
- ⑩発達障害児の特別支援教育における外部専門家との協力
- ⑪重度四肢まひ者の家庭復帰計画
- ⑫高齢者の骨折予防・治療と生活支援
- ⑬高齢者への投薬
- ⑭聴覚障害のある幼児を持つフィリピン人の母親への支援

在学生アンケートより(抜粋)

実際の体験談を聞き、自分たちのアプローチをより具体的に考えることに繋がった。

曖昧なものに対して確認ができ、チームでは気づかなかつことを教えていただいた。

とても参考になるお話を聞けて、自分たちの支援計画がより明確なものとなつた。

現場の意見を聞くことができ、教科書よりもより現実的だつた。

同窓生の感想

作業療法学科

2009年卒

高野 友美さん



社会福祉法人 豊潤会 新潟県障害者リハビリテーションセンター 勤務

各学科の学生が連携し、専門性を活かしながら症例に対してどのように関わることができるかを検討する姿勢に刺激を受けました。臨床で関わる機会が少ない分野の症例では他職種から学ぶことが多く、私自身の勉強にもなりました。

健康栄養学科

2005年卒

加藤 寛子さん



社会福祉法人 かえつ福社会 特別養護老人ホーム あがうら 勤務

学生の課題に取り組む姿勢がとても真剣で感心しました。専門職としてどのように対象者と関わり行動するのか、事例を通して考え、学んだことを専門職として働く時に活かしていただきたいです。

理学療法学科

2007年卒

田村 祐美さん



新潟医療生活協同組合 通所リハビリテーションなじよも 勤務

昨年に続き、今年も参加しました。テーマによっては関わる機会の少ない学科もあったようですが、その中でも自分に何ができるのかを一生懸命考えている姿を見て感心しました。

健康スポーツ学科

2015年卒

塚原 美織さん



新潟医療福祉大学大学院 在学

健康スポーツ学科の学生が関わることの難しい題材が多かったと思いますが、自分のできること、できそうなことを探すことで自分が持つ知識や限界を知り、医療福祉に関わるために健康スポーツ学科の学生でもできることが1つでも多く見つかるといいと思いました。

国家試験・ 資格試験出陣式



今年度も国家試験・資格試験を受験する在学生の皆さんに合格と大願成就を祈願し、同窓会より合格祈願・大願成就鉛筆を贈呈しました。

今回の鉛筆はなんと、断面が五角形! まさに「五角(ごかく)」と「合格」との語呂合わせ!!

鉛筆には前年度に卒業した同窓生が考えた3つのメッセージが彫られており、夢や目標が叶うようにとの願いが込められています。先輩たちからの想いのつまつた鉛筆を受け取り、より一層の飛躍を誓う在学生の皆さんでした。



ツール オブ プロフェッショナル Tool of Professional

激務の日々を過ごす医療従事者にとって欠かせない、「相棒」とも言える仕事道具。
そんなプロフェッショナルが日々大切にしているツールをご紹介します。

社会医療法人 桑名恵風会 桑名病院 リハビリテーション部 言語聴覚士

柄澤 明子さん（言語聴覚学科 2005年卒）



①聴診器



②患者様からいただいた絵ハガキ

大学4年の臨床実習終了後に担当した患者様からいただいた絵ハガキです。このハガキをみると初心にかえり、自分を今一度見つめ直す事ができ、何よりもパワーをもらいます。



勤務先の紹介

当院は24時間対応の救急外来、脳神経外科や循環器内科の卒中患者を対象とするストロークセンターを有する急性期医療を中心としていますが、回復期病棟、地域包括ケア病棟、訪問・在宅医療までを担うケアミックス病院です。言語聴覚士は失語症、高次脳機能障害、摂食嚥下障害、構音障害を主な対象とし、リハビリスタッフや他職種と情報交換を行いながら、患者様とご家族の方になれたらと常に心がけています。非常にやりがいを感じますし、努力を重ねる日々をおくっています。



同窓生へのメッセージ

言語聴覚士にとって重要なことは、患者様を知りたいと思う気持ち、知識、技術に基づき信頼に応えることだと思います。専門知識を学び、限られた人に接する機会のみとなってしまう学生生活は視野が狭くなりがちです。多くの人と接することで様々な考え方、人に触れ、相手(患者様)を知る、思い遣る、変化に気付ける「心」「目」「自分」を育ててください。

仕事の流れ 頸部聴診法

1 口腔清掃

2 ハッピング、強い咳嗽による貯留物の喀出・吸引

3 発声を伴わない、ほぼ一定した強さの呼気再生(呼気音の聴取)、自発呼吸(呼吸音の聴取)

4 試料の嚥下(嚥下音の聴取)

5 呼気の再生(呼気音の聴取)、自発呼吸(呼吸音の聴取)、③の呼気音、呼吸音との相違の判定



同窓生は ALUMNI NOW!



理学療法学科
2010年卒
石川 太一さん



臨床技術学科
2016年卒
小林 弘樹さん

日々を大切に

勤務先

新潟大学医歯学総合病院 臨床検査技師

職務内容

当院の診療支援部検体検査部門で勤務しています。主として外来の患者様の採血や検体仕分け、血液検査などを担当しています。日々多くの検査データを目にのせる中で、疑問を持つ姿勢を大事にしながら、忙しくも充実した毎日を過ごしています。

「患者様と真摯に向き合って」

勤務先

新潟医療生活協同組合 木戸病院 理学療法士

職務内容

当院は東新潟地域における急性期総合病院ですが、地域包括ケア病棟や回復期リハビリ病棟もあり、365日リハビリを提供しています。私は急性期病棟のチームの一人として働いており、担当している整形外科病棟では手術直後の患者様を多く診ています。看護師や回復期チームと連携し、回復期のリハビリが円滑に進むよう心がけています。その他に外来リハビリやがんリハビリなども行っています。幅広い領域の患者様を担当する機会に恵まれているので、多くの知識を身につけ、患者様に対しよりよいリハビリが提供できるよう、今後も勉強していきたいと思っています。

学生時代の思い出

翌日の講義が休講になったので、友人と深夜2時に出発し高速を使わずに福島のハワイアンズに行ったこと(帰りはさすがに高速を使用しました)がいい思い出です。

仕事をしているとこんな弾丸旅行はできないため、大学生ならではの経験だったと思います。

大学の経験と仕事との関係

本学には多くの学科があり、基礎ゼミや総合ゼミなどで多くの職種からの視点や意見を聴く機会に恵まれました。職場では看護師やソーシャルワーカー、ケアマネージャーなど多くの職種と連携し、患者様への支援が必要となるため、本学で勉強できたことはいい経験だったと思います。

今後の夢と目標

患者様によりよいリハビリを提供できるよう、知識や技術を高めていきたいと思います。

同窓生や在学生にメッセージ

知識や技術はもちろんですが、患者様とのコミュニケーションも大切だと思います。リハビリは信頼関係があつて成り立つのであることから、特に会話を通じたコミュニケーションが大切だと思います。在学中に旅行に行ったりアルバイトをしたりなど、色々な経験が現場での職務に活きてくると思います。

いです。そのためにも学会や研修会に積極的に参加し、見聞を広め、緊急検査士などの資格の取得など、自信をもって日々の業務に従事できるようになります。将来的には興味を持った分野の大学院に進み、教える立場にならざると考えています。

同窓生や在学生にメッセージ

同窓生のみなさん、学会などでお会いした方もいれば、卒業してから一度もお会いできていない方もいてさみしく思います。1年目で覚えることが多く、仕事の不安なども共有できればと思いますので、集まる機会を作つて同窓会をしたいですね。





健康栄養学科
2016年卒
星 緩季さん

「管理栄養士としてのスタートに立って」

勤務先

埼玉医科大学総合医療センター 管理栄養士

職務内容

現在、当センターの栄養部に勤務し、栄養管理計画書の作成や入院患者様の栄養状態の評価、食事や経管栄養についての提案、外来・入院患者様への栄養指導、食事管理業務等を行っています。多くの診療科の患者様を診ることができ、業務を通じて日々

学びながら、刺激を受けています。

学生時代の思い出

実習で夜遅くまで大学に残ったり、卒業研究で1日中ゼミのメンバーと実験室にこもったり、当時はつらいと感じたことも今になってみると充実した大事な時間を過ごしていたなと思います。またアルバイトの経験も大切な場となりました。アルバイトを通じてお客様とも仲良くなったことに加え、社会的なことも学ぶことができ、貴重な時間となりました。

大学の経験と仕事との関係

栄養教育の実習での経験が、患者様への栄養指導に活きていると実感しています。学生のうちに模擬患者様として一般の方に対する栄養指導を実施できることは貴重な経験でした。また栄養指導は事前準備も大切ですが、患者様の情報からアセスメント、プラン立案の流れも実習で学ぶことができ、現在の仕事に繋がることがたくさんありました。

今後の夢と目標

ひとりひとりの対象者と同じ目線で向き合い、頼りになる管理栄養士を目指したいと思います。そのための道

具が私にとっては「食と栄養」であり、経験を積み豊富な引き出しや技術を培っていきたいと思っています。そのための目標として現在は摂食嚥下リハビリについて学んでいます。

同窓生や在学生にメッセージ

在学中は大学の友達や先生方、アルバイト先の同僚や先輩・後輩、たくさんの人との出会いがありました。いつも支えていただいた皆様にこの場をお借りして感謝の気持ちを伝えたいと思います。



看護学科
2010年卒
水戸部 優太さん

「研究者として働く」

勤務先

新潟医療福祉大学 保健学研究科 看護学科 勤務

職務内容

看護学科で教員をしています。大学教員は、主に教育と研究の2つの仕事をしています。教育では授業や実習等を担当し、看護に対する柔軟な発想と論理的思考を要求されます。学生の発想には驚かされることがあります。日々共に学んでいます。研究は複雑で高度化した医療現場において、看護職が力を発揮し続けるために必要な課題の解決に不可欠であると感じています。現在、

集中治療室と在宅医療における身体的援助の効果について取り組んでいます。

学生時代の思い出

在学時の看護学科は女子学生9割・男子学生1割という環境でした。4年間、男子8人仲良くキャンパスライフを送りました。恩師とお酒を酌み交わしながら看護について熱く語ったことを覚えています。

大学の経験と仕事との関係

卒業研究に際しては、集中治療室で研究データを取ることができました。そこで看護師の素晴らしい患者様を看ることの難しさを学び、探求する力が養われたと思います。現在は臨床現場で疑問に思っていたことを課題として研究しています。

今後の夢と目標

今後の夢はイグノーベル賞を受賞することです。目標は自分の時間を確保することです。



同窓生や在学生にメッセージ

自ら考える力を育ててください。





GOTOHPEDIA

Kininaru Kotoba wo Kaisetsu Shimasu!

福祉医療分野に従事する方々を取り巻く環境は、日々急速に変化しています。しかし、その変化によって、聞いたことはあるけれどよくわからない言葉が多く出てきているはず。

そんな「気になる言葉」の意味を、このページではわかりやすく解説します。



“健康運動指導士【けんこううんどうしじゅうし】”

「健康運動指導士」とは、保健所・病院・介護施設などといった保健医療機関の関係者と連携しつつ、個々人の心身の状態に応じた、安全かつ効果的な運動を実施するための運動プログラム作成および実践指導計画の調整等を行う専門家です。

近年の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられています。この対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を

ます高まっています。
これまでスポーツインストラクターや各自治体のスポーツ推進委員などが健康運動指導士の資格を取得し、それぞれの職務に従事しておりますが、

最近では理学療法士や管理栄養士、医療ソーシャルワーカーといった国家資格を保有する保健医療従事者の方々の資格取得も増加していることから、社会的な期待が大きい専門資格でもあります。

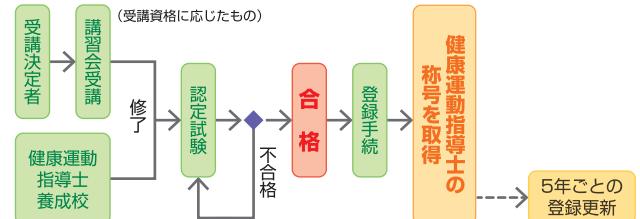
皆さんもご自身のキャリアアップのために、「健康運動指導士」を目指してみてはいかがでしょう。



「健康運動指導士」を取得するには…

健康運動指導士養成講習会の受講または健康運動指導士養成校の養成講座修了のち、健康運動指導士認定試験に合格し登録手続きを経て資格取得となります。

詳しくは【公益財団法人健康・体力づくり事業財団HP】をご覧ください。



(参考: 公益財団法人健康・体力づくり事業財団HP)

「健康運動指導士」でさらなるキャリアアップ*

健康運動指導士の資格保有者は、日本心臓リハビリテーション学会が認定する「心臓リハビリーション指導士」の資格取得を目指すこともできます(※条件あり)。詳しくは【日本心臓リハビリテーション学会HP】をご覧ください。



次代の保険・医療・福祉・スポーツ分野を担う、教育者・研究者・高度実践専門職業人を目指す。

新潟医療福祉大学 医療福祉学研究科

本学大学院では、社会の方も学びやすい昼夜開講制に加え、長期履修制度、各種奨学金制度など、様々な面で皆さんの「学びたい」をサポートしています。

また、国家資格を有している方が、さらに専門的で高度な技術や知識の習得を目指す、または各種職能団体等による専門職資格の習得を目指し、かつ修士の学位取得もできる「高度専門職業人プログラム」を提供しています。キャリアアップを目指している方、少しでも興味をお持ちの方はお気軽にお問い合わせください。

■修学をサポートする制度

- 本学卒業生は、入学金半額(10万円)免除
- 平日は18:10から授業スタート。土曜開講や集中講義もあります。
- 長期履修制度(修士課程:最長4年、博士後期課程:最長6年)
- 教育訓練給付金指定講座(一部対象外)

■各種奨学金制度

- 大学院無利子貸与奨学金(学費の全額または半額を無利子で貸与)
- 特別研究奨学金(卒業生対象、年間15~20万円を給付)
- 修学援助奨学金(2年時に15~20万円を給付)

注目 修士課程学費減免特待生制度

優秀で経済的に修学が困難な方を対象とした制度です。採用された場合、2年間合計で**最大110万円**の学費が減免されます。
(分野や年次により減免額は異なります) 詳細は大学院HPをご覧ください <http://www.nuhw.ac.jp/grad/>

資料請求やお問い合わせは本学大学院入試事務室まで TEL : 025-257-4500 FAX : 025-257-4505 E-mail:grnyuusi@nuhw.ac.jp

大学院と仕事の両立

学びたいという 気持ちを大切に

私が最初に「研究」にふれたのは、大学4年生の卒業研究でした。卒業後は新潟市内の病院に就職しましたが、臨床では様々な壁にぶつかりました。そうした時の解決方法は先輩に相談することと、先行研究を調べることでした。そこでふと、卒業研究のことが思い出されました。自分で立てた問い合わせに対してやりがいを感じ取り組み、その結果を得られたときの喜び…当時と同様に、現場での自身の疑問を解決する方法として、改めて「研究」することが必要なのではないかと感じ、大学院への進学を考えるようになりました。

正直、私は器用な方ではありません。現場での仕事と大学院での勉強を両立することに若干の不安はあります

た。しかし、臨床の現場で感じる疑問を解決するために新たな学びが必要であると強く感じていました。これについて職場の上司に相談したところ応援すると言っていただけのこと、さらに上司だけでなく職場全体の理解もあったことから、働きながら大学院へ進学することを決意しました。

現場で担当した呼吸器疾患の患者様が強く印象に残り、この疾患にまつわる疑問の解決に向け研究したいと思うようになりました。そこで、この患者様の日常の身体活動量の調査と並行して授業で研究手法について学びながら、疑問点を整理していきました。実際に調査し、データをもとに考えてみると、呼吸器疾患をもつ患者様の生活の一端に触れることができ、自分の疑問が次第に解決していくことを実感しました。

「研究」とは、物事をあらゆる面から考察し、疑問や問い合わせを探求していくことだと思います。それは現場での仕事において様々な角度からアプローチし、解決方法を探し

社会医療法人 新潟勤労者医療協会
介護老人保健施設 入船 勤務

塚原 美希さん

(保健学専攻作業療法学分野 2016年卒)



出すことへつながりました。

大学院へ進学し卒業することができたのは、学びたいという気持ちを応援してくださった方々のおかげです。本当に感謝しています。



医療技術学部
救急救命学科

2017年4月 新設

※掲載内容は予定であり変更になることがあります。

2017年4月より「救急救命学科」が新設されます。日本海側唯一の4年制“救急救命士”養成学科として、プレホスピタルケア（病院前救急救命）を担うスペシャリストである「救急救命士（国家資格）」を養成します。また、防災・減災に寄与する「防災士」の同時取得に対応した独自のカリキュラムを配置。これに加え、本学で導入している「連携教育」を通じて、チーム医療を実践するために必要な多職種間連携を学び、あらゆる救急要請に対応可能なプロフェッショナルの育成を目指します。



同窓会よりご案内

学科同窓会を開催しませんか？



同窓会では、学科同窓会の開催を積極的に応援しています！

卒業〇周年という節目だけではなく、「〇〇学科〇期生同窓会」といった同期会など、母校を卒業した仲間たちとの交流会を開催しませんか！？

開催のご相談は、同窓会支援室 (dosokai@nuhw.ac.jp) もしくは、

同窓会役員までお声がけください！



同窓会は
こんな活動を
しています。



国家試験合格＆大願成就鉛筆配付



ホームカミングデー



ホームページ・
フェイスブック



伍桃



facebook
新潟医療福祉大学
新潟医療福祉大学 同窓会
公式Facebook



在学生支援



学生表彰



学科同窓会



その他、授業への同窓生派遣など様々ななかたちで後輩たちのバックアップをしています！



住所が変わったら…

フォーマットに変更事項を記載して送信ボタンをクリックするだけ！カンタンです！



同窓会に対するご要望やご質問は下記までどうぞ！

同窓会支援室連絡先

メールアドレス dosokai@nuhw.ac.jp
電話番号 025-257-4500

| 編集後記 |

学内が中日ドラゴンズより指名された笠原君のお祝いムードに包まれるなか、目黒君の日本代表としての派遣が決定した時、特集記事は野球対談しかない!ということで企画を進めてまいりました。イマドキの学生であることがうかがえる反面、ことばの端々に滲む信念に今後の活躍への期待がふくらみ、取材担当側がパワーをもらえた有意義な時間でした。

同窓会は、同窓生・在学生ともにより充実した支援のために尽力します。今後ともご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

問い合わせ先

新潟医療福祉大学同窓会

新潟医療福祉大学 同窓会支援室 新潟市北区島見町1398番地

メールアドレス | dosokai@nuhw.ac.jp
電話番号 | 025-257-4500